

雲雀っ子

令和6年1月22日発行

ねばり強く やりぬく子 ・自分で考える
・仲間と助け合う
・最後までやりきる



「ねばり強く やりぬく那加二っ子」の姿から

校長 奥村 美樹恵

2024年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月9日、学校スタートの日の全校朝会では、子ども達に「チャレンジを通してできた!を増やそう」「心も身体も元気でいよう」というお話をしました。これは4月から話し続けていることです。年度まとめの時期だからこそ、子ども達一人一人が自分に自信をもち、自分の持っている可能性にわくわくしながら生活し、次の学年に進級してほしいと願っています。

雲雀っ子7月18日号で「休み時間の過ごし方を考える」ために、5年生の5人、大西さん、小川さん、管野さん、小島さん、島田さんが、雨の日は室内でカードゲームを楽しめないかと考え、代表運営委員の子ども達とも話し合っていることを紹介しました。5年生の5人は自分たちでルールを決め、運営方法を考えて12月に全校に紹介をし、実施することができました。実に半年かけて準備をしてきました。

初回は1年生と6年生と一緒に遊ぶことができる日でした。5年生の5人がまず、会の趣旨を説明し、その後約束を確認しました。その後、トランプ、UNO、将棋など、いくつかのコーナーに別れ、遊びが始まりました。1年生と6年生が一緒になって遊ぶ姿の中に、下学年を気にかけて優しく声をかけたり、盛り上げたりする6年生の姿が見られました。初めてその場で出会った者同士でしたが、笑顔がこぼれ、歓声が沸き起こり、楽しい時間でした。

実際に企画し、運営した5年生の5人も、どの子どもが楽しく遊ぶことができるようにと各コーナーを回りながら声をかけたり、遅れて遊びに来た1年生の子ども達も参加できるようグルーピングしたり、一度も「先生、どうしよう…」と尋ねてくることなく、その時その場面で出くわした事について、自分達で考え、判断し、臨機応変に対応していました。見事でした。参加してくれる全校の仲間にどう遊んでほしいのかというしっかりとした願いがあり、どんなことに困り感が出るのか等イメージをしているから、対応ができたのだと思います。遊びが終わった直後、「すごい数の人が遊びに来てくれた」と喜んだり、「疲れた。でも、皆が楽しそうで、僕も嬉しかった」と笑顔がこぼれたりしていました。自分たちの生活をよりよくしていくために出来ることを考え、行動できる子ども達が増えていくことを期待したいです。

12月に5年生の田中蒼人さんが糸電話の実験をしていました。糸電話の仕組みは、声が紙コップに振動し、その振動が糸に伝わり、その振動が相手のコップに伝わって聞こえる仕組みです。そこで蒼人さんは「糸電話の糸ってどれくらいの長さまでできるのかな」とつぶやきました。確かに…。じゃ、やってみようよ!ということで、1月に約40mの風糸で糸電話をやってみました。聞こえるかなあ、という予想を持ちながらも、でも無理かなという気持ちもあったり。職員室前の廊下で実験開始。廊下の端と端で、風糸を引っ張りながら準備をしていると、いろいろな先生達、また子ども達もその様子に興味をもち、一緒に参加してくれました。紙コップを耳に当てると…。聞こえました!蒼人さんも、周りにいた子ども達も大喜びでした。でも、またそこで、他の児童から「じゃあ、もう少し太いひもでも聞こえるのかな」「ギネスに挑戦じゃないけど、どれくらいの長さまで聞こえるのかな」「なんでこんなに長いのに聞こえるのかな」など、様々なつぶやきが聞こえました。

これが「学び」だと思いました!「何でかな」「どうしてかな」と思ったことから、「よしやってみよう!」と自分なりに挑戦することで、学びが広がります。そして、「なるほど。わかった!」と思えた時に、学びが深まります。子ども達自身で感じ、考え、判断し、行動できたことは、その子の生きる力に繋がっていくと思います。まさに、本校の教育目標「ねばり強く やりぬく子」の姿だと思いました。



1年生と6年生とで将棋を楽しんでいる様子



異学年で一緒にトランプをする様子



風糸で実験する蒼人さん